

日本全国 能楽キャラバン!

大江能楽堂公演

伝統と伝承

令和4年

1月22日(土)

会場 大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル

時間 午後1時開演(12時開場)



大江能楽堂公演 伝統と伝承

於 大江能楽堂 令和四年一月二十二日(土) 午後一時開演(正午開場)

帝 橋本 雅夫
鷺 大江又三郎

蔵人 宝生 欣哉
大臣 殿田 謙吉
從臣 宝生 尚哉
與 平木 豊男
與 大日方 寛

山本 哲也 井上 敬介
林 吉兵衛 杉 市和

間 寛人 小笠原弘晃

(後見) 鷺尾世志子
杉浦 豊彦
橋本 光史

(地謡) 谷 弘之助 吉浪 壽晃
河村 浩太郎 青木 道喜
宮本 茂樹 片山九郎右衛門
浦部 幸裕 河村 晴久

佐渡狐 奏者 小笠原由詞

越後の百姓 泉 慎也
佐渡の百姓 小笠原弘晃

(後見) 山本 豪一

(二時半頃)

花若 大江 雪乃
友治の妻 大江 泰正

小澤刑部 大江 信行

望月 望月秋長 福王茂十郎

間 秋長に仕える者 小笠原由詞

谷口 正壽 前川 光範
吉阪 一郎 左鴻 泰弘

(後見) 大江 広祐
井上 裕久 深野 貴彦

(地謡) 樹下 千慧 河村 晴道
河村 和晃 河村 和重
田茂井 廣道 浦田 保浩
分林 道治 越賀 隆之

附祝言 (終了予定 四時十五分頃)

「大江能楽堂」は、明治時代に建てられた現存する唯一の能楽堂です。昭和二十年には建物疎開の対象となり八月十五日午後に取り壊す予定でしたが難を逃れました。既に取り壊した楽屋部分等の増築や改修、さらに令和三年八月には百二十年ぶりに舞台板を新調。次代に伝統を継承する場であり続けます。絵師・国井応陽が描いた鏡板の老松は「根を張って力強く発展するように」との祈りが込められています。

この曲は、元服前か還暦をすぎたからしか動かないという掟になっている。このような年齢制限を持った曲は他になく、清純無垢な者が鷺という清らかな鳥に扮するためだと思われ。延喜の御代のある夏、帝は夕涼みのため神泉苑に行幸になる。すると池の汀に白鷺が羽を休めており、蔵人に捕まろうと命じる。蔵人が近づくに飛び立つ鷺。しかし蔵人が「勅詔だ」と呼び掛ける。鷺は素直に降り立ち、静かに抱き取られる。帝はその様子に感じられ、蔵人と鷺にそれぞれ五位の位を授ける。鷺は喜び舞を舞い、許されて飛び去るのだった。

シテは白づくめの装束で、天冠に鷺の立物を立て、(鷺乱)という鷺の生息を模倣した特殊な舞を舞う。シテはもろん重い許し物になっているが、ワキも大役で、鷺を捕らえる仕組は、能には珍しく写実的な演技となる。能が大成する以前にあった芸能の一つ「延年の大風流」の構成を色濃く残す作品で、「平家物語」の中にある「五位鷺」が典拠とされる。帝の威光を強調、賛美しているようにもとれるが、それがテーマではなく、鷺の舞を見せるのが主眼。鶴や亀、獅子、狸々など動物の精を舞わせるのは奇譚の象徴であり、めでたさの予祝でもある。

望月

信濃国(長野県)の安田庄司友治は従兄弟の望月秋長と口論の末に討たれたため、一家は離散し、家臣の一人であった小澤刑部友房は、いまは近江国(滋賀県)の守山で、甲屋という宿屋の亭主になっている。一方、友治の妻と遺子の花若は、敵の手を逃れて旅に出るが、はからずも旧臣である友房の宿屋に泊まることになった。そこへ今度は、都へ上がっていた望月が、下人と共に帰郷の途中、同じ宿屋に泊まり合わせた。敵討ちの時節到来と、友房の計画で、旧主の妻を盲御前に仕立て、花若に手を引かせて望月の屋敷へ連れてゆき、下向祝の慰みにと、曾我兄弟の仇討ちの物語を語らせ、花若には八段を打たせ、更に友房も獅子舞を見せる。つづいての余興の面白さと酒の酔いに望月が眠り伏した隙を見て、首尾よく討ち果たし、本望を遂げるのだった。



大江能楽堂 交通アクセス

- 地下鉄東西線「市役所前駅」下車 西へ徒歩4分
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」下車 東へ徒歩4分
- 京阪電車「三条駅」下車 徒歩15分

チケット料金 一般 5,000円 学生 2,500円 (全席自由)

ご予約・お問合せ

京都観世会事務局 (京都観世会館内)
TEL.075-771-6114 <http://kyoto-kanze.jp>
大江能楽会
TEL.075-561-0622 MAIL. noh@fumi.org

